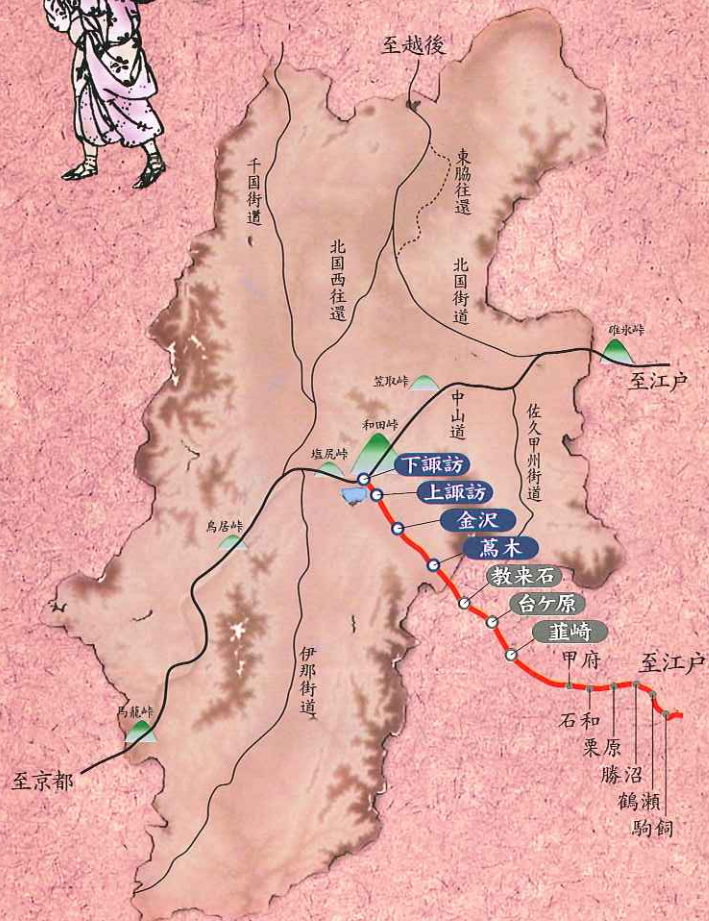


長野県・山梨県の甲州街道

地域の皆さんといっしょに、
まちづくり、道づくりを進めます。



長野県には公の甲州街道四宿のほか、「佐久甲州街道」と呼ばれる脇往還もありました。沿線自治体では、街道の歴史的遺産などの発掘・保存や文化の継承、それらを活かしたまちづくり・みちづくりを進めています。約400年を経て未来へ受け継がれる大切な遺産を、地域の皆さんといっしょに活力ある「まち」、魅力ある「みち」へと創造していきます。

長野県内の“ハラハラ”箇所

“ハラハラ箇所”とは、道路の安全性の確保が必要な箇所であり、交通事故の危険性が高い箇所です。平成19年3月に、パブリックコメントを通じて、長野県移動性・安全性向上検討委員会が50箇所を抽出しました。“ハラハラ箇所”を通行する際には十分にご注意ください。（※地図中水色で示しています。）

【お問い合わせ】

国土交通省関東地方整備局 長野国道事務所

〒380-0902 長野県長野市鶴賀字中堰145

TEL/調査課 026-264-7006

<http://www.ktr.mlit.go.jp/nagano/>

甲州街道

歩いて見つける街道の魅力。歩いてみませんか

信濃（下諏訪宿↪葛木宿）甲斐（教来石宿↪葦崎宿）七宿

下諏訪宿

上諏訪宿

金沢宿

葛木宿

教来石宿

台ヶ原宿

葦崎宿



3 諏訪大社下社秋宮

上社前宮・本宮、下社春宮と並び、全国に広がる諏訪信仰の総本社。平成22年は7年1回の式年大祭(御柱祭)が行われる。



2 甲州街道終点の碑

江戸から53里11丁地点。甲州街道は中山道に合流し、道程を終える。下諏訪温泉の発祥、綿の湯の由来書きと並んで建つ。



1 下諏訪宿本陣

岩波本家と分家に二分される。岩波家には中山道随一の庭園が。皇女和宮が宿泊した上段の間は分家にそのまま残っている。



- 1 下諏訪宿本陣
- 2 甲州街道終点の碑
- 3 諏訪大社秋宮

5 先宮神社

松平忠輝墓(貞松院)

6

八剣神社

4 茶屋跡

ハラハラ箇所

街道名物



塩羊かん

山に囲まれた下諏訪では、塩は貴重品だった。「塩羊かん」はその塩を使った贅沢な銘菓。明治創業の老舗菓子舗が昔ながらの製法と味を守っており、下社秋宮の参拝みやげとして人気が高い。

中山道と合流するいで湯の宿
下諏訪宿 SHIMOSUWA
 甲州街道の終点は、いで湯と信仰の里。諏訪大社下社への参詣と、いで湯めぐりが今も昔も旅人の心を癒す。道筋に街道時代の名残りがあほか、本陣、旅籠、茶屋などが昔の姿をとどめたまま保存、公開されている。
 [JR中央本線下諏訪駅から約0.8km]



街道名物



うなぎ

諏訪湖を水源とする天竜川の「やな漁」で捕るうなぎは、江戸時代から諏訪地方の名物だった。湖畔には今もうなぎ店や川魚店が多いが、岡谷は「うなぎのまち」として知られる。

5 先宮神社

諏訪神社の祭神「健甕名方命」が国ゆずりの際服従し、他地に出ることを許されず、境内の小川には橋を架けないとの言い伝えがある。



6 大清水

大清水が湧き出る一帯の町名は清水町。江戸時代、ここから片羽の一里塚までの城下は馬から降りての通行が定められていた。



ハラハラ箇所 左記水色の範囲が交通事故の危険性が高い「ハラハラ」箇所です。通行の際は十分にご注意ください。



「信州諏訪湖」團扇絵 諏訪／北斎画



7 神戸の石造道標
甲州道中と、大門峠を経て長門方面へ向かう大門街道が分岐する分が去れにあり、大小の道標と石灯籠がある。



4 茶屋跡
上諏訪宿と下諏訪宿の間に残る中の茶屋。江戸時代の面影がそのままに。目の前の街道は諏訪

行ってみよう!



御柱祭
おんばしらさき

7年1度(寅申の年)行われる諏訪大社の御柱祭。上社本宮(諏訪市)・前宮(茅野市)・下社(秋宮・春宮)ともに下諏訪町の4宮それぞれに宝殿の式年造営と4本の巨木の曳き建てが行われる個性的な大祭。「木落し」「川越」「里曳き」「建て御柱」と見どころが多い。
《御柱祭(平成22年)》
平成22年4月1日(木)～6月15日(火)
●行事日程 ●御柱伐採(上社)3月11日(木)・(下社)5月3日(日) ●山出し(上社)4月2日(金)～4日(日)・(下社)4月9日(金)～11日(日) ●里曳き(上社)5月2日(日)～4日(火)・(下社)5月8日(土)～10日(月)
●場所/長野県諏訪市 茅野市 下諏訪町
●お問合せ/諏訪市観光協会
☎0266(6)22111
茅野市商業観光課
☎0266(7)22101
下諏訪町産業観光課
☎0266(2)71111

山には武田氏の金鉱があったとされる。
「JR中央本線青柳駅から約1km」



上諏訪宿

8 上原城跡

7 神戸の石造道標

9 葛井神社

10 白岩観音堂

11 如意輪観音(はりつけ場)



諏訪大社の門前町
上諏訪宿 KAMISUWA
全国に広がる諏訪信仰の中心、諏訪大社上社のお膝元。江戸時代は高島藩の城下町として発展した。街道沿いには歴史ある社寺が点在するほか、造り酒屋が軒を連ねる。大社参詣の潔斎に庶民が利用した「精進湯」は、今も公衆浴場。
「JR中央本線 上諏訪駅下車」



8 上原城跡
諏訪盆地を見下ろす金比羅山の頂きにある。諏訪氏はこの地で義兄にあたる武田信玄に滅ぼされた。本郭、土塁などが残る。



9 葛井神社
大晦日、諏訪の前宮より幣帛、御穀などを運び朝4時頃、葛井の池に投げ入れると遠州のさなごの池に浮かび出ると伝えられている。

10 白岩観音堂
本堂は、諏訪の名工、初代立川和四郎富棟が手がけた初期の建築として名高い。大胆な虹梁彫刻が見どころ。





14 ゆるぎ石

金沢宿がもとあった青柳地籍にある。大岩が簡単に揺れる不思議から、道中の名物であったと伝えられる。



15 御射神戸の一里塚

樺の大木に守られるように建つ一里塚で、江戸から48里の距離を示す。国道から少し入った峠道にある対塚。



16 茅木風除林

樹齢200年以上の赤松が延長160mの間に植えられている風除林は富士見町指定天然記念物で往時の姿をそのまま伝える。



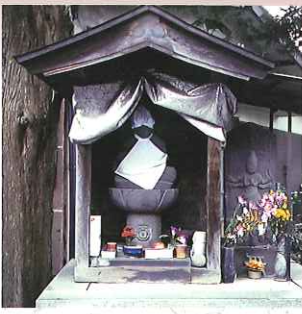
12 近江屋

明治まで茶屋として営業していた町家で、連字格子や木鼻の彫刻など江戸後期のたたくまいを保っている。



13 おてつき石

金沢宿の上下入口にひとつづつあり、殿様往来の際、宿役人がここに手をつけて出迎えたことから「おてつき石」と呼ばれる。



11 如意輪観音はりつけ場

金沢宿の本陣問屋、小松三郎左右衛門処刑の地。隣村との山林問題に尽力し、地元では義民として讃えられて供養仏が建つ。

芝居小屋もあったにぎわいの宿
金沢宿 KANAZAWA
 開通当初は青柳宿といい、宮川の氾濫などで現在の場所に移転、金沢宿となった。芝居や浄瑠璃が演じられる舞屋や、見目よき女性がいた茶屋があり、にぎわったと伝えられる。背後の金沢



富嶽三十六景 甲州三島越/北斎画



長野県 ← → 山梨県

葛木宿

18 応安の古碑

19 日蓮上人高座石

20 山口の関所跡

教来石宿

21 白須松林址

22

かぼちゃ、ネギ、ゴボウ、白菜など季節の野菜の具をたっぷり入れ、幅広の麺を下ゆでせずに味噌仕立てで煮込む甲州の郷土料理。汁まで黄色いかぼちゃ・ほうとうが代表的。



堤防に守られた宿場町
葛木宿 TSUTAKI
山口の関所を過ぎ、県境の新旧界橋を渡って釜無川を越えたと信州となる。葛木宿は釜無川沿いの低地に位置し、いくつかの堤で守られていた。街並みや杵形の道筋に街道時代の面影が今も色濃く残る。
〔JR中央本線信濃境駅から約3km〕



信濃へ続く甲州最後の宿
教来石宿 KYOURAISHI
国の境を清める「清ら石」の祭祀が宿名の語源と伝えられる。口留番所「山口の関所」が置かれ、信濃と甲州の国境としての役割を果たした。宿のはずれに平安時代から一里にわたって「白須松原」が続いたとされるが、今はない。
〔JR中央本線日野春駅から約7km〕

17 葛木本陣・問屋跡
宿駅制度によって甲州道中43番目に設置された葛木宿。当時の面影をしのび、本陣表門を平成4年、本陣跡地に復元された。



18 応安の古碑
石碑の刻文としては、諏訪郡で最も古く600余年余年前のものである。この古碑は宝篋印塔の一部であると考えられている。



19 日蓮上人高座石
敬冠院の境内にある。疫病に苦しむ村を訪れた日蓮上人が、この上に立ち2晩3日説法したとの伝説がある。



20 山口の関所跡
信州諏訪領と甲州領との国境を見張った口留番所。番士2名に下番2名で守る小さな番所であった。明治2年に廃止された。



26 万休院・舞鶴松

国の天然記念物に指定されている、樹齢400年のアカマツの巨木が見どころ。「舞鶴松」の呼び名もある。庭園もみごと。

温泉(甲府市) 下諏訪温泉(下諏訪町)など、今も「信玄の隠し湯」の伝説を伝える温泉場は数多い。



24 明治天皇菅原行在所

明治天皇も訪れたという、台ヶ原宿の豪商北原家の「鷹の間」。諸大名の宿舎としても利用されていた。



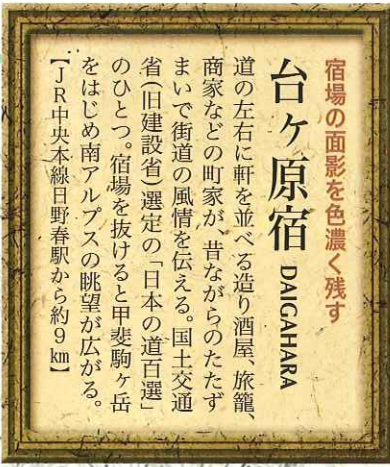
25 七賢

250年の歴史を持つ造り酒屋。白州の水のよさにひかれ、伊那高遠からこの地へ移ったとされ、「七賢」の銘柄で知られる。

宿場の面影を色濃く残す

台ヶ原宿 DAICAHARA

道の左右に軒を並べる造り酒屋。旅館商家などの町家が、昔ながらのたたずまいで街道の風情を伝える。国土交通省(旧建設省)選定の「日本の道百選」のひとつ。宿場を抜けると甲斐駒ヶ岳をはじめ南アルプスの眺望が広がる。「JR中央本線日野春駅から約9km」



25 七賢

24 明治天皇菅原行在所

23 台原信氏宅

26 万休院・舞鶴松

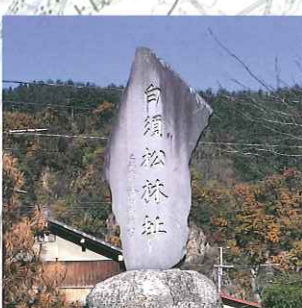
27 明治天皇日野御小休所



白須の道祖神
つるや旅館
田中・荒尾神社



21 白須松林址
一里ほど松原が続ぎ、大幹に分岐きた「六本松」や有名な巨木もあった。征東將軍宗良親王がここを歌ったといわれる歌碑がある。



22 つるや旅館
古い街並みが続く台ヶ原宿の旧旅館。街道のにぎわいを伝えるたたずまいを残し、現在も旅館として営業している。



23 台原信氏宅
荒尾明神の社家として元禄13年に建てられた代表的古建築物。宿場の町屋の一般形態と同じ民家である。



山など街道沿線の山里では柿すだれがみごとな景観を見せる。大人の拳ほどもある大型の「甲州百目」を中心に、天日干しや硫黄薫蒸など手間暇かけてつくる。高柿は、甘さも栄養も満点。高級干柿として贈答品に人気が高い。



武田信玄は、自然の治癒薬として、温泉を積極的に利用したことも知られる武将。領土拡大とともに温泉の発見、開発に力を注いだ。甲州街道や八ヶ岳山麓の信玄構道の沿線をはじめ各地に湯治場を作り、戦で傷ついた将兵や金山で働く坑



武田信玄の像 (甲府駅前)

知ってなるほど!
各地に残る「信玄の隠し湯」伝説

27 明治天皇円野御小休所
明治13年に明治天皇巡幸の碑。休憩所となった屋敷の長屋門が残る。当時、村人は御座所の白砂をお守りにしたと伝えられる。



28 祖母石の赤地蔵
自然石に「南無阿彌陀仏」と書かれ、表面が赤く塗られているため、地元で赤地藏と呼ばれ信仰されている。



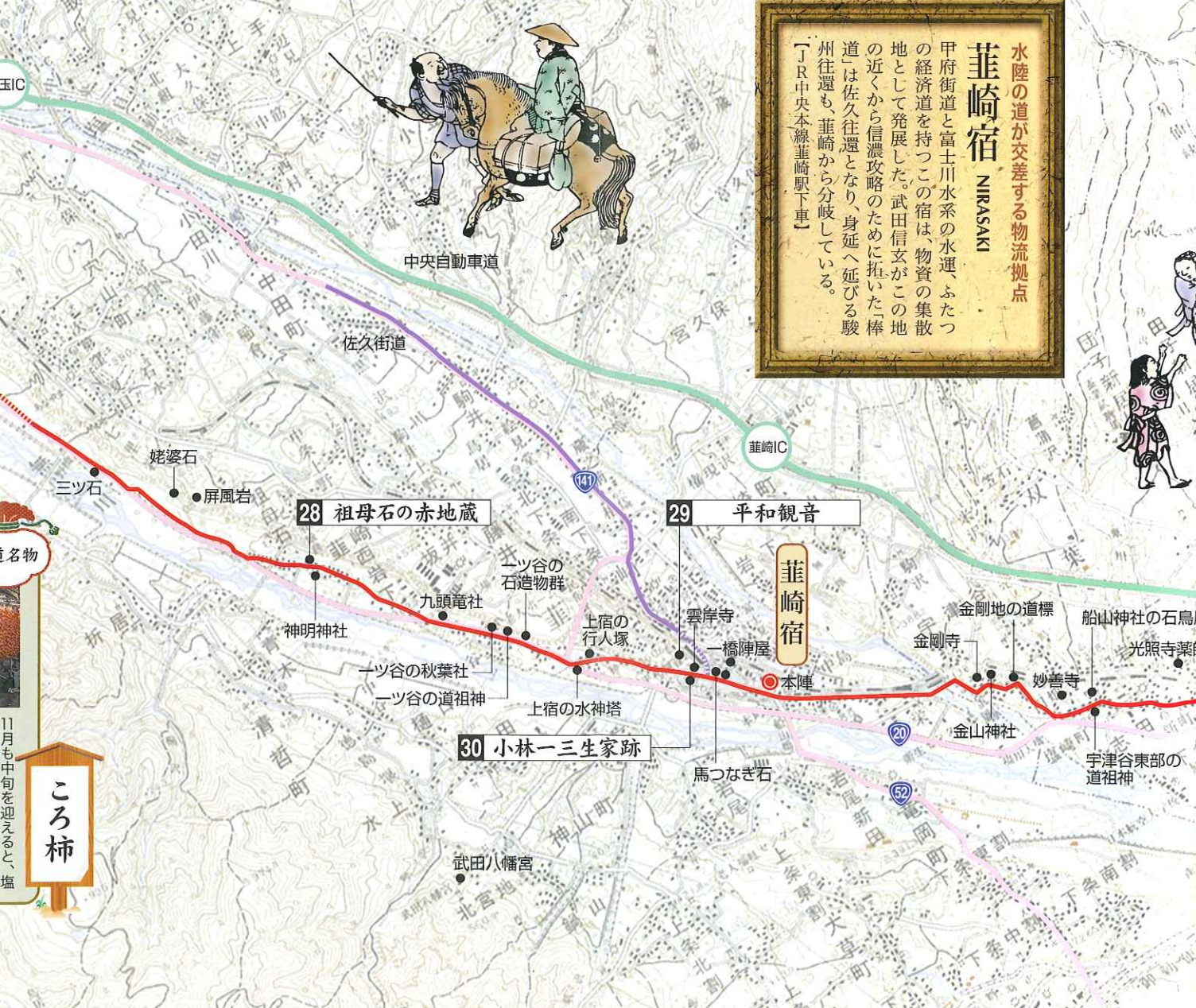
29 平和観音
昭和36年に韮崎市民の平和と無限の発展やこを訪れる登山者の無事安全を祈願して、七里岩南端の市内を望める場所に建立。



30 小林一三の家跡
「金じゃ角島、田地じゃ布屋」と歌われていた大地主、豪商で、酒、醤油、製糸業なども営む名主。現在、文化村になっている。



水陸の道が交差する物流拠点
韮崎宿 NIRASAKI
甲府街道と富士川水系の水運ふたつの経済道を持つこの宿は、物資の集散地として発展した。武田信玄がこの地の近くから信濃攻略のために拓いた、棒道は佐久往還となり、身延へ延びる駿州往還も、韮崎から分岐している。
〔JR中央本線韮崎駅下車〕



名物
11月も中旬を迎えると、塩
ころ柿



31 泣石
 新府落城の時、勝頼一行が通り
 落涙した所で、岩から水が流れ
 出したという伝説がある。今は
 白い水の流れた跡が残っている。



32 下今井の道標
 下部が欠損した新旧2基の道標
 (庚申塔)が並んで建ち、甲州街
 道と市川駿河へ向かう道との分
 岐点であることを告げている。



富嶽三十六景 甲州石班澤/北斎画

四口口年の時を超え 「むかし」と「いま」の 甲州街道を歩いて感じよう

五街道のひとつ甲州街道は、徳川家康が江戸と軍事要衝である甲斐・甲府城を結んで定めた官道。甲府を越え、信州・下諏訪で中山道と合流します。戦国時代には、武田氏の軍勢が駆けめぐる軍用道路でしたが、街道制定以後、「茶壺道中」「二度飛脚」、そして富士や甲斐善光寺、信濃の善光寺に詣でる多くの旅人が行き交う道となりました。自らの足で歴史をたどる甲州街道の歩き旅へご案内しましょう。



宿場マップについて
 江戸・日本橋から甲府を経て信州・下諏訪に至る約五十二里余の甲州街道。この全四十七の宿場のうち長野県の下諏訪宿から山梨県の美師宿までの七宿を、周辺に残る名所や史跡とともに紹介します。マップを片手に甲州街道の歴史をお楽しみください。

地図の凡例

- 甲州街道
- 有料道路
- 一般国道
- 主要地方道
- 名所・史跡
- ハラハラ箇所

地図は甲州街道沿線の各自治体所有の5万分の1の白図を使用し、近世の甲州街道を赤色(道は赤の実線。ただし通行不能区間及び比定があいまいな箇所は破線)で表しました。